

Tokyo Olympics



トライアスロン

トライアスロン女子で、高橋侑子(富士通)が2時間1分18秒で18位だった。岸本新菜(福井県スポーツ協会・稲毛インター)は途中棄権した。優勝はグワイー(バミュータ)で、1時間55分36秒だった。



18位でゴールした高橋

高橋、力走も18位

台風の影響による風雨でスタートが15分遅れた。レース前の気温は23度台。数年かけて取り組んできた暑熱対策の効果が目に見えない状況は、自然を相手にする競技とはいえ簡単ではなかった。それでも高橋は「パニックにならず対応できた」と冷静だった。

スイムを10位で終える上々の出来でバイクに移ると、第2集団でレースを進めた。悪天候を想定してタイヤの空気圧を下げるなどの対策を講じて先頭集団を追う。だが、1分ほどの差がなかなか縮まらない。落車する選手を横目に、積極的に行きたい気持ちとペースを

上げてレースを走りきれるかという不安が交錯していた。「安全第一に守りすぎたところがあった」。ランに移るトランジションでは8位に押し上げたが粘れずに順位を落とす。18位という結果を素直に受け入れたレース後は目に光るものがあった

た。自国開催で出場できなかったしさと、メダルに届かなかった悔しさと。「いろいろな気持ちが入り混じっている」と胸の内を明かす。リオデジャネイロ五輪の出場を逃して拠点を海外に移すことを決断。各国から選手が集まる環境でもまれ、心身共にタフさを身につけてきた。「ここまで来るのは長いようであっという間だった」。初めての五輪のレースは

理想的ではなかったが「それがスポーツ。貴重な経験をさせてもらった」。スタートラインに立つまでの過程には納得している。31日の混合リレーではエースとして日本を引っ張る立場になる。「気持ちを切り替えてチーム一丸となって臨みたい」。5年間の成長は、今大会から採用された新種目で披露するつもりだ。(渡辺岳史)